

選者 川口孤舟

出席者 今井紀久男 川口孤舟 久米五郎太 在間千恵 佐藤ただしげ 豊田ゆたか

長谷見びん 星田啓子

投句・選句 伊賀山そらお 柿崎忠彦 小早健介 朱牟田恵洲 土谷堂哉 中川雅夫

福島正明 古田昇 宮内規雄 山田けい子 山内天牛 山崎亜也 渡邊盛雄

選句のみ 赤田堅 安部眞希子 重枝孝岳 庄司龍平 高橋敏郎 橋口隆 早川允章

山本三恵

《互選句》○は選者の特選 ◎は孤舟選者の選

十三点 ◎捨てきれぬ夢浮かびたる柚子湯かな 盛雄 (真・紀・孤・千・○孝・堂・雅・允・啓・規・天・け・三)

九点 ◎悲しみのハガキ一通十二月 忠彦 (紀・孤・千・た・龍・堂・隆・び・啓)

八点 ◎相席の間はず語りや日向ぼこ 昇 (真・○そ・紀・孤・健・恵・雅・三)
海鳴りや牡蠣剥く女の笑い声 けい子 (真・紀・○た・昇・正・啓・び・天)

七点 冬うらら黙す石庭足るを知る 堂哉 (そ・千・孝・恵・昇・啓・亜)

六点 ◎遠不二是砂糖菓子めき雪まどふ 千恵 (紀・孤・雅・允・け・盛)

五点 クリスマスジャズライブ 紀久男 (五・○恵洲・隆・亜・天)
ハーレムの教会に喜捨冬帽子 吉右衛門追悼

仰ぎみる芸と人品冬落暉 全 (真・雅・○敏・允・昇)
吉右衛門追悼

大播磨! 声色真似て爛酒(かん) つけて 全 (忠・敏・○昇・け・三)
太古より進化躊躇ふ海鼠かな 孤舟 (紀・五・○堂・亜・盛)
◎沙羅落葉我が散る先を歌うごと 雅夫 (紀・忠・孤・ゆ・け)

四点 今や父母伯父叔母はなし開戦日 五郎太 (そ・紀・敏・隆)

日記買ふ明日の我への備忘録 千恵 (紀・堅・た・龍)

舟やるけ島に住めやと冬の夜話 びん (紀・健・堂・○啓)

白鳥の光の水脈を曳きて翔つ 昇 (紀・○五・恵・允)

網くぐり蜜柑熟れたと告げる鳥 啓子 (紀・た・龍・ゆ)

柿落葉押し葉となりし轍跡(わだちあと) 全 (紀・孝・恵・ゆ)

三点

落人の里獵銃の音たーん

孤舟

(紀・健・天)

シモネッタもヴラマンクも居る冬麗

五郎太

(紀・〇正・三)

楽章の間(あい)のしわぶき伝染す

惠洲

(紀・堂・正)

賞味期限眼凝らし見る冬灯(ともし)

全

(紀・び・盛)

◎掠鳥の群れ飛び騒ぐ日暮れかな

ただしげ

(紀・孤・規)

湯上りの冬満月や東山

堂哉

(紀・龍・規)

蠟梅や小枝一挿香りきく

ゆたか

(〇堅・紀・た)

蒼ざめてまたときめくや寒夕焼

びん

(紀・忠・孝)

宅急便の点滅ライト年の暮れ

正明

(眞・紀・啓)

◎山鳩はいつも二羽なり枯木立

規雄

(紀・孤・恵)

師走空鳥が一羽二羽三羽

全

(そ・隆・盛)

鬼平も病に勝てず年暮るる

天牛

(〇紀・五・敏)

富有柿一つで満腹老夫婦

全

(紀・千・び)

能舞台ゆらゆらと舞ふ冬の蝶

けい子

(紀・ゆ・昇)

冬遍路の道標とふ虚子の句碑

盛雄

(紀・敏・〇三)

(今治市・南光坊)

二点

年の瀬や異変なきこと願うのみ

そらお

(紀・雅)

音もなく忍び寄る老い除夜の鐘

孤舟

(紀・堅)

◎駄句に開け駄句で閉づ年蜜柑食ふ

健介

(〇眞・紀)

玻璃越しに阿弥陀を見詰む小春の日

全

(紀・孤)

吉右衛門を偲んで

千恵

(紀・孝)

大星の輝き消えた冬の空

ただしげ

(紀・亜)

落ち葉踏む銀杏並木や黄金道

全

(忠・健)

遺影の妻へ赤を扱ひし冬薔薇

惠洲

(紀・規)

吉右衛門を偲んで

吉右衛門逝きて今年の秋寂寥(せきりょう) ゆたか

全

(紀・正)

蠟梅を啄む小鳥愛らしく

全

(堅・紀)

千両や小庭の片隅明るめり

正明

(紀・千)

猫のやう未練見せず年ゆく

びん

(紀・正)

一点

落語聞く師走句会や来年こそ

忠彦

(紀)

鳥歌ふ神社の森の冬日向

雅夫

(紀)

おでん種しつかと黄金の出汁をひく

啓子

(紀)

妻と歩くさざん花の道今年また

規雄

(雅)

鳴来るとりあへずの群雌ばかり

亜也

(紀)

※ ※ ※ ※

【句評】

十三点句 ◎捨てきれぬ夢浮かびたる柚子湯かな 盛雄

孤舟さん・・・湯に浮かぶ柚子に、未だ叶わない夢を重ねている。

千恵さん・・・いつもはぼつーと湯船につかっても柚子が浮かんでるとなると何故か普段と違い感傷的な気分にもなりそうですね。

孝さん・・・一陽来復を願い禊としての柚子湯に、捨てきれぬ夢を浮かべたのは実に同感です。

堂哉さん・・・実を結ばなかった夢のあれこれ。でも、今のんびりと湯につかれる幸せ！

啓子さん・・・一年の締め括りも近い柚子湯。邪気を払うというその香りを纏いつつゆったりと浸かる。そう、もう少し夢は見続けてみようか・・・

天牛さん・・・何が捨てきれぬ夢でしょうか。

九点句 ◎悲しみのハガキ一通十二月 忠彦

千恵さん・・・11月、12月ともなると欠礼のはがきが届きます。年賀状よりその人のことを一層思ったりしますね。

ただしげさん・・・年賀状を書く頃に届くハガキ、その時の驚きと寂しさがよく理解できる。

堂哉さん・・・今年も何通もの悲しみが届きました。季語が利いています。

隆さん・・・在宅療養で長男死すとの喪中のはがきを受け取った。寂しい新年を迎える。日本中で思いを寄せる新年になりそう。

龍平さん・・・実際には何通も・・・

八点句 ◎相席の間はず語りや日向ぼこ 昇

孤舟さん・・・意志の疎通に、もう言葉など必要のないふたり。

海鳴りや牡蠣剥く女(ひと)の笑い声 けい子

ただしげさん・・・浜辺の牡蠣小屋と思われるところで、楽しそうに談笑しながら牡蠣を剥いているほのぼのとした風景が感じられて良い。

啓子さん・・・遠くから聴こえてくる海鳴りは季語で冬の暗い海と空を感じさせ、一方では牡蠣を剥きながらお喋りをして弾けるように笑う逞しい女性たちの生活感が感じられ、スケールの大きい句と思いました。

天牛さん・・・牡蠣を剥く女の人達は皆ほがらかですよ!!

七点句 冬うらら黙す石庭足るを知る 堂哉

千恵さん・・・最小の素材のみで美しい庭を作り上げる石庭に人の生き方を重ね合わせて己への自戒も込めている表現が良いと思います。

恵洲さん・・・その昔、京都大徳寺で拝観したうらかな日よりの石庭を思い出しました。冬うららの季語が活きています。

六点句 ◎遠不二是砂糖菓子めき雪まとふ 千恵

孤舟さん・・・実際は冬の厳しい寒さに曝されている富士山だが、遠景ではあ

かも砂糖菓子のように、あたたかで優しい感じに見える。

五点句

クリスマスジャズライブ

ハーレムの教会に喜捨冬帽子

紀久男

五郎太さん・・・ジャズプレーヤーや黒人は COVID-19 で大きな打撃を蒙った。献金用の帽子が回される。

隆さん・・・ Oh holy night. 年の瀬は心が洗われるときでもある。

亜也さん・・・喜捨集めに回ってきた帽子のことと理解しましたが、着眼が絶妙。

天牛さん・・・ハーレムの協会は黒人だらけで暗いですよね。

吉右衛門追悼

仰ぎみる芸と人品冬落暉

紀久男

敏郎さん・・・選句が吉右衛門ばかりになってしまいました。

吉右衛門追悼

大播磨！声色真似て爛酒（かん）つけて 紀久男

昇さん・・・花も実もあるいぶし銀の吉右衛門の演技。思わずテレビに向かつて

声を掛けたくなります。実在の鬼平を彷彿させてジーンと来ま

す。こんな鬼平と熱爛を酌めたなら、さぞかし旨いだろうなと思います。

太古より進化躊躇ふ海鼠かな

孤舟

堂哉さん・・・海鼠の不可思議の評として感動しました。熱爛が恋しくなりました。

亜也さん・・・よく言われる話ですが、「躊躇ふ」が軽妙。

◎沙羅落葉我が散る先を歌うこと

雅夫

孤舟さん・・・「沙羅」の名は釈尊がその樹下で涅槃に入ったフタバガキ科の沙羅樹と間違えたとは言われるが・・・

四点句

今や父母伯父叔母はなし開戦日

五郎太

隆さん・・・最終的にはたった一人の決断で300万人の命が奪われた。恐ろしい

時間に立ち会った人たちもいない寂寥感。

日記買ふ明日の我への備忘録

千恵

ただしげさん・・・作者の気持ちが十分に伝わって来る。

龍平さん・・・何歳の方か知りませんが、ちと遅くはないですか？ 日記やメモ

書きは一生残す積りなら 若いうちから始めるのが良い。老後
こんなに役立つもの他になし 〓弊意見〓

舟やるけ島に住めやと冬の夜話

びん

堂哉さん・・・方言が利いています。似たようなことが、思い出されました。

啓子さん・・・過疎の島となった瀬戸内海の小島。何度も訪れてくれる馴染みの客に思いを向ける土地の漁師か。囲炉裏を囲み酒を酌み交わせばふとそんな話が出てくる冬の夜である。方言を上手く使われています。

白鳥の光の水脈を曳きて翔つ

昇

五郎太さん・・・「光の水脈を曳きて」の措辞に感心しました。

網くぐり蜜柑熟れたと告げる鳥 啓子

ただしげさん・・・網をくぐって蜜柑をつつきに来る鳥を見て蜜柑の熟れを知る感覚が面白い。

紀久男・・・目白、山雀が嬉しそうにつついているのが目に浮かぶ好句です。

三点句

落人の里猟銃の音たーん 孤舟

天牛さん・・・落人の里は寂しいですね！

紀久男・・・忠臣蔵のお軽勘平が落ち延びたのが山科。「たーん」と乾いた音がします。

シモネッタもヴラマンクも居る冬麗 五郎太

正明さん・・・丸紅ギャラリーの豊かさは先人に目利きがおられたから。シモネッタは国宝級でしょう。良く買いましたね！

三恵さん・・・先日私もギャラリー拝見して参りました。

紀久男・・・五郎太さんは「丸紅ギャラリー」杉浦館長と旧知で開館早々案内をしていただいたそうです。

楽章の間(あい)のしわぶき伝染す 恵洲

堂哉さん・・・この時とばかり追いかけるように続きますね！

賞味期限眼凝らし見る冬灯(ともし) 恵洲

びんさん・・・そういうことあるると共感をよびます。でも音読すると窮屈。「見る」は余計。「賞味期限に眼(まなこ)凝らせる冬灯」では。

◎椋鳥の群れ飛び騒ぐ日暮れかな ただしげ

孤舟さん・・・駅前前の樹々に罫を構える椋鳥。夕方に騒々しく一斉に舞い上がり、茜の空を真っ黒に覆いつくす。

紀久男・・・テレビで椋鳥の騒音と糞公害で市の職員が放水と放鷹で追い払っているのを視た人も多いと思います。

蠟梅や小枝一挿香りきく ゆたか

堅さん・・・毎年蠟梅は年始に飾ります。昨日遺影に供えました。

蒼ざめてまたときめくや寒夕焼け びん

紀久男・・・実に上手い。次点です。

◎山鳩はいつも二羽なり枯木立 規雄

孤舟さん・・・冬の厳しいいまこそ「連れ合い」の存在が大きい。

師走空鳥が一羽二羽三羽 規雄

隆さん・・・鳥には年の暮れもない。ただ、生きるために飛ぶだけ。

鬼平も病に勝てず年暮るる 天牛

紀久男・・・吉右衛門追悼句として拔群。「鬼平犯科帳」は実父の初代白鷺と二代に互る当たり役でした。

富有柿一つで満腹老夫婦 天牛

びんさん・・・柿と老夫婦。「秋ふかむ」情景がなんとも良いですね。ところで、二人で一つ？それとも、それぞれ一つ？と言う曖昧さは残すとして、「満腹」と「老夫婦」は言葉が直接的で散文的になって仕舞うのでは。

「二人してひとつに足るる富有柿」などいかが。

二点句 音もなく忍び寄る古い除夜の鐘

孤舟

堅さん・・・実感ですね。

活動の増える期待や日記買ふ

健介

眞希子さん・・・読む方も我が事のように期待がふくらみました。作者の年代にも興味津々。年代が上がれば上がる程すてき、励まされます。

◎駄句に開け駄句で閉づ年蜜柑食ふ

健介

孤舟さん・・・俳句は継続が肝心。来年はきつと秀句に恵まれるだろう。
吉右衛門を偲んで

大星の輝き消えた冬の空

ただしげ

亜也さん・・・追悼句の中でとりわけ句格の高さを感じました。

紀久男・・・「忠臣蔵」の大星由良之助役も鬼平同様親子二代の当たり役でした。

一点句 おでん種しつかと黄金の出汁をひく

啓子

紀久男・・・好い句です！大阪時代の「たこ梅」を想い出しました。道頓堀中座の芝居が撥ねてから昼も夜も必ず行きました。



青葉会予定

(済) 令和四年正月五日(水) 吉例初芝居総見(歌舞伎座第一部) 十一時〜十三時半

令和四年一月二十七日(木) 初句会。十三時〜十六時半

於…三茶しやれなあと 会議室(ビナス)(15分前に会議室に入室可) ※左地図ご参照

◇参加者は当季雑詠5句。投句は2句まで。締め切り…一月二十五日(火)中。

参加の可否、ご投句のご連絡は…今井宛FAXか郵送、或いは星田メール

(keiko-reve@07.itscm.net)までお願い致します。

※三茶しやれなあと 世田谷区太子堂2-16-7 三軒茶屋分庁舎5階 ☎03-3411-6636

東急世田谷線(終点)下車徒歩3分 / 東急田園都市線三軒茶屋駅下車(出口:北口A)徒歩1分

※会場は地図の赤く塗り潰したビル5階。バス停が目印。

ATM(みずほ銀行)が設置されているビルで時により宝くじの幟が出ています。ATMはビルのエントランス右手に設置してあるためビル正面に立って初めて見ることが出来る位置です。そのATMの脇を通りビルに入り、エレベーターで5階にお越しください

交通アクセス



●電車

- ◎東急世田谷線 三軒茶屋駅下車 徒歩3分
- ◎東急田園都市線 三軒茶屋駅下車 北口A徒歩1分

●バス

- ◎東急バス・小田急バス 渋24(渋谷〜成城学園前駅西口)
- ◎東急バス 渋05(渋谷〜弦巻営業所)・渋21(渋谷〜上町) 渋23(渋谷〜祖師谷大蔵駅)・黒06(目黒駅〜三軒茶屋)
- ◎小田急バス 渋26(渋谷〜調布駅南口) 下61(北沢タウンホール〜駒沢陸橋)

※日曜・祝日の13時〜17時の間は茶沢通りが歩行者天国になりますので、下61系統は三軒茶屋までの運行がございません。

※当館には駐車場がございませんので、電車・バス等をご利用のうえご来館ください。お車でお越しの際は、最寄りのコインパーキングをご利用ください。

一、冬晴れの10:30新社屋に開場した丸紅ギャラリー入口に十名集合。杉浦館長とは旧知の稲垣真澄さん(元産経新聞編集委員)が久し振りの出席。一時間強、丸紅の誇る近代西洋絵画や染織等のコレクションの粋を堪能した。受付の応対ぶりも良く絵葉書も売っており好印象。
 12時〜14時隣の毎日新聞社ビル地下 赤坂飯店竹橋店で師走の句会。個室のテーブルは6名迄で稲垣さんは遠慮されました。忘年会シーズンで僅か二時間。その代わり料理を5皿にして追加の焼麴、炒飯等堪能。ご覧のように盛雄さんがダントツの高得点。忠彦さん、昇さん、けい子さんも高得点でした。また、孤舟選者へのお歳暮(高島屋商品券)、歌舞伎曆。ワープ口担当の啓子さんへ歌舞伎座カレンダー、会計の千恵さんへは俳句協会カレンダー(孤舟選者からの寄贈)を贈呈。句会後の二次会は赤坂飯店のほぼ向かいのアジアンレストラン(ネパール料理)となりました。

二、関係者近詠

数ミリの髭の調整秋立てり	真希子	枉げぬほどの自説とて無くそぞろ寒	陽亮
紹介状の固き封印青蜜柑	全	十三夜ドアにはドント・デイスターブ	全
底抜けの朗報送れ高き天	全	あの頃はありし団欒十三夜	全
信仰にプロはをらぬよ秋桜	全	路線図の混み合ふ東京燕去る	全
赤いほどこんな寂しさ茨の実	弘子	真弓の実裂けて緋の色罪の色	全
良夜かな手放す本を読み返す	全	梯剛之シューベルティアーデ	紀久男
草蜻蛉汝がため息の薄緑	全	ブラボーに「月光」を弾くピアニスト	全
観泉台へ小鳥右から左から	全	小鳥来る高木大樹伐られしまま	全
秋更けてかたつむりの子身を透きて	全	籠り居に紅葉の湯宿の誘ひ来る	全

生前も死後もつめたき箒の柄 飯田龍太

(飯田龍太郎を訪ねました 弘子)

「森の座」一月号 (横澤放川選)

酒好きの父しのぶ夜の掘炬燵	盛雄	酒徳利に折詰め提げて顔見世へ	紀久男
木枯や犬の洋服ケ・セラ・セラ	全	(南座顔見世)	
捨てきれぬ夢は一つか柚子湯沁む	全	大播磨芸道極め冬天へ	全
憂き世なり酒に飲まれて年越さん	健介	蜜柑食ひ漱石全集再読す	全
ポーナスのついで残らぬ若き日よ	全	(日経新聞連載 伊集院静「道草先生」を読んで)	

「きさらぎ句会」12月

三、孤舟選者近詠

「
 秋涼し蹠の覗く乳母車
 殺生のことはさておき毛虫焼く
 船小屋に潮騒を聴く送りませ
 郷の秋校歌を刻むソノシート
 大花野詩心の窓を開け放ち

「爽樹」一月号

四、後藤保明さんが10月31日に81歳で永眠されました。最後にお会いしたのは万里子先生がリハビリ入院された頃ご一緒にお見舞いした折でした。奥様からはその後、認知症に罹患されたとお知らせございました。句会での温顔、穏やかな話しぶりが忘れられません。遺句より小生好みの句を抄出してみました。

1. 御十夜のお供へ見つめ子ら合掌
2. ひめやかに黒猫かさこそ枯葉踏む
3. 雲避け芸子が走る上七軒（かみひちけん）
4. 雪囲ひ真昼の宴も仄暗し
5. 盃を伏す区切りとなりぬ蜆汁
6. 壬生狂言さわりでひた止む団扇音
7. 花冷えや雪洞（ぼんぼり）寂し祇園かな
8. 葵祭牛車（ぎつしゃ）の軋み時代越え
9. 鯉時（かつおどき）辛口冷やし夜を待つ
10. マラケシユの涼夜を渡る祈りかな
11. 三味の音がまだらに聞こゆ風の盆
12. 散紅葉川面を染めて友禪に

五、中国料理の回転テーブル

12月11日の朝日新聞に中華料理の回転テーブルについて大きくページが割かれていました。（「サザエさんをさがして」）目黒雅叙園考案の日本発祥説を岩間一弘慶応大学教授が覆し、18世紀初頭のイギリスで衛生食卓として使われていて上海で用いられたこと、当時の日本の中華料理店は座敷形式が多かったため給仕さんの手間が劇的に減り普及したようだと言っている。1982年1月、故陳舜臣（当時の人気作家）が家族で食事している写真を掲載。小生が広報部に移った折、丸紅グループ社員約3万人対象の「りえぞーん」を企画立案。創刊号に寄稿依頼し快諾貰ったこと想い出した次第です。

六、調査部OBの活躍

昨年末から新年早々の日経紙とNHKテレビを見ておりますと、旧調査部面々の登場が目立ちます。柴田明男氏 資源食糧問題研究所々長「ボーナス減に物価高騰」、杉浦勉氏 丸紅ギャラリー館長、今村卓（たかし）氏 丸紅執行役員・丸紅経済研究所々長「米国捻れ議会及び日本経済の見通し」等。調査部門は他商社を圧倒している感じですが。

七、企業広告

三井物産、三菱商事、伊藤忠商事が年始から二ページの全面広告。三社夫々の特徴がひと目でわかるキャッチフレーズで「くらしさ」があります。我が社のそれも大いに期待しております。年末に社友会全員にカレンダーが届きました。これまでは壁掛けタイプでしたが、写真も絵も無く丸紅の特徴も感じられず何等の変哲もない卓上カレンダーがっかりしました。天牛さんが嘆いておられたように、壁に貼るスペースが空いてしまい甚だ寂しい限りです。過去最高の利益と株の配当をした当社とも思えず、是非とも次回は今ままで通りの我が社らしい工夫を凝らしたカレンダーに戻していただけるようお願いいたします。

令和四年一月九日

紀久男 記